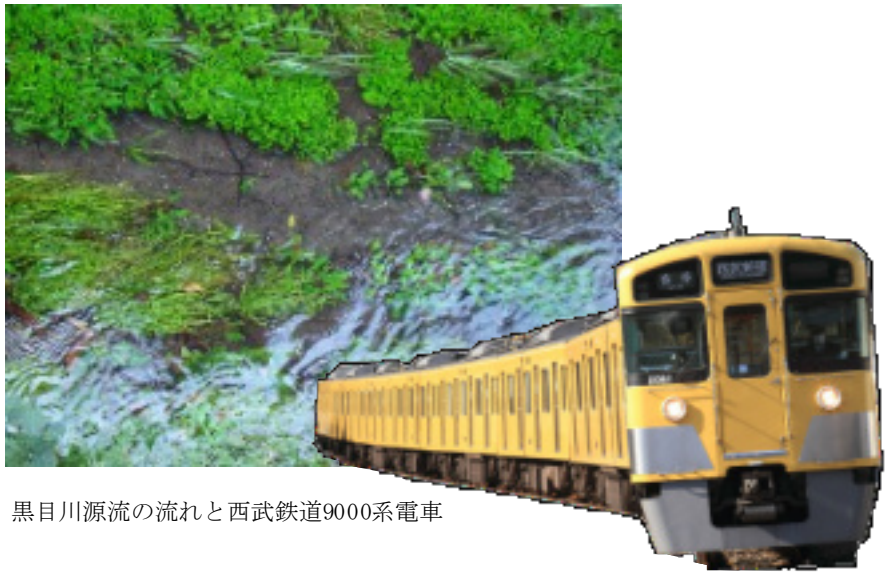
遠足のしおり



黒目川源流の流れと西武鉄道9000系電車

２０１５年１１月２９日（日）
さいかち窪から黒目川源流
武蔵野の水辺散策と美味しいコーヒー

杉並区立さくら小学校

２ 年　も み じ 組　（　　）
なまえ

川の源流を考える

さいかち窪の流れ

今回訪ねるのは、小平霊園の中の「さいかち窪」と黒目川源流部分です。流れに沿った道を「さいかちの道」ともよんでいます。

「さいかち窪」に水が湧くのは、毎年とは限りません。近年では、１９９１年　１９９７年　２００４年　２００８年で洪水被害などあった雨量の多い年です。さて、今年は水の流れや湧水を見ることができるでしょうか。楽しみです。

黒目川は東久留米市柳窪の「さいかち窪」から発し、埼玉の新座市へ、さらに朝霞市で新河岸川に合流します。荒川から隅田川・荒川放水路に分岐し、東京湾に到ります。（１級河川）

黒目川に似た名前に目黒川がありますが、この川の源流の一つが国学院久我山高校の近くにある寺町、高源院の池と知り、びっくりポンです。暗渠となっている烏山川を下り、世田谷の池尻大橋で北沢川（暗渠）と合流して目黒川が始まります。目黒・五反田の西を下り、品川の天王洲アイルで東京湾へ。江戸時代は「こりとり川」と呼んでいたようです。「垢離取り川」と書き、目黒不動尊へお参りする人が身を清めたとか。戦後は汚い川の仲間入りをしていましたが、現在は新宿区下落合１丁目（西武新宿線・下落合駅南、神田川西）にある落合水再生センターで高度汚染処理をした水の一部を目黒川にも流し、水質は大きく改善されました。近年の目黒川は春の桜や冬に向けてのライトアップ（青の洞門など）で有名になっています。杉並近くを源流とし、杉並区民の一部汚水が別

高源院の池

の形でここでも役立っていたとは、またまたびっくりポンです。

杉並区内を流れる川　◆神田川は井の頭池を源としています。◆善福寺川は善福寺池から発します。◆妙正寺川は妙正寺池も源流ですが、この池からさらに北に井草川として遡ることができます。暗渠の形になっていますが桃五小の隣を通り、井荻駅の南を西へ、西武新宿線から北へ出てまた南へ、井草中と三谷小の間をのぼって杉並工業高校敷地から、上井草４丁目３の「切通し公園」まで遡ります。ここは井草八幡から青梅街道をはさんだ北側に位置し、地形をよく見るとここが源流であることに納得します。この付近から出土した土器は「井草式土器」として有名です。古代人にとっても住みよい場所だったようですね。◆桃園川はすべて暗渠ですが、源は天沼の弁天池です。明治のころはこんこんと湧きだした水が付近の田畑を潤していたようです。河北病院の近く、杉並学院高校の南を東へ。このあたりから桃園川緑道として整備されています。環七を越えると大久保通りにそって東へ。北新宿３丁目付近で神田川と合流します。◆善福寺川と神田川が合流するのが中野弥生町６丁目。地下鉄富士見町車庫の近くです。◆妙正寺川は高田の馬場の東、明治通り高戸橋で神田川と合流します。江戸時代の神田川は飯田橋から日本橋をへて東京湾へ。その後幕府がお茶の水台地を削って柳橋で隅田川に流す水路をつくりました。水源では流量のわずかなこれらの川ですが途中の大宮・方南・中野・江古田・高田馬場付近では治水対策の工夫がほどこされています。

分水嶺という言葉があります。先日テレビの「ブラタモリ」軽井沢編で旧中山道碓氷峠の一番高いと思われる地点でペットボトルの水を流す試みをしていました。右

側にこぼした水は東に流れ、左に流した水は西に流れました。東の水は利根川を経て太平洋に、西の水は千曲川、信濃川をへて日本海へと注ぎます。

信州・甲州・武州にまたがる甲武信岳は頂上を境に信州側は上記と同じ日本海へ。甲州側は笛吹川・富士川を経て太平洋に。武州側は秩父荒川を経て東京湾へ。ほんの一跨ぎの差で右と左に泣き別れです。

杉並の井草八幡鳥居前は妙正寺川系と善福寺川系との分水嶺。久我山の玉川上水あたりは神田川系と目黒川系の分水嶺というところでしょうか。水系の源をさぐる面白さがそこにあり、人生模様を見ているようです。

さいかち窪とさいかちの道

ところで、「さいかち」とは何でしょうか。

＊「さいかち」とはカブトムシのことで、関東地方の南あたりで使われている呼び名だそうです。　このあたりでも、私が子どもの頃（１９４５年～５５年）は、たくさん捕れました。さいかちが出る頃は、柿の実が沢山落ちます、その実を使って「さいかち車」をつくって遊びました。　柿の実の大きさのそろったのを２個用意して、竹串を刺して車を作ります。竹の皮を用意し竹串を包むようにして先端に紐をつけて車をつくります。これを

オスの角や首にかけて引かせます、力のあるカブトムシだから車を引けたのでしょ

う。一方、「サイカチ」とは、木の名前で鋭いトゲのある木です。一説にはそのトゲの形がカブトムシの角に似ているからついた名前と言われています。江戸時代、このあたりではサイカチの実を鷹の餌として幕府にさし出す必要があり、植えられていたようです。「麦打ち唄」の歌詞にサイカチ原と言う地名がでてきます。（柳久保小麦はブランド）また、武蔵村山の小学校（どこかは不明）の校章にサイカチの花がデザインされているという話しを聞きました。（土地の人の話から…ネット調べ）

サイカチ（莢）はマメ科サイカチ属の落葉高木。別名、カワラフジノキ。日本の固有種で本州、四国、九州の山野や川原に自生する。また、実などを利用するために栽培されることも多い。
樹齢数百年というような巨木もあり、群馬県吾妻郡中之条町の「市城のサイカチ」や、山梨県北杜市（旧長坂町）の「鳥久保のサイカチ」など、県の天然記念物に指定されている木もある。

「さいかち窪」のさいかちがカブトムシからきているのか、木の「サイカチ」に由来しているのか不明ですが、私は「サイカチの木」だと思いますが、みなさんはいかが？

柳窪天神社からしんやま親水広場

さいかち窪から新青梅街道を渡ったところからさいかちの道が始まります。① 運がよければ竹林の中を流れる黒目川を見ることができます。② 柳窪天神社周辺は、屋敷林や社寺林が隣接し、深い森に包まれた幻想的な世界です（都条例で保護）。境内の石碑には、梅林の移植と天神の飛来伝説とが巧みに組み込まれ、くるめを「来梅ノ荘の里」、黒目川を「来梅川」と記しています。

「柳窪里梅林之記」が刻まれていることから柳窪梅林の碑とよばれています。この碑文は、江戸時代の安政４年（１８５７）に六所宮神主（府中の大国魂神社宮司）であった猿渡盛章が書いたもので、古い祠の傍らにあった「天神松」という老木が枯れるのを惜しんで、村人と梅林の植樹をしたことが記されています。そのなかには、「来梅ノ荘の里」や「来梅川」という名が記されており、現在の地名を考えるうえで貴重な資料となっています。裏面には「ちとせとて　まつはかぎりのあるものを　はるだにあらば　はなはみてまし」という菅原道真と伝えられる歌が梅沢敬典という書家の手によって書かれています。（東久留米市教育委員会掲示より）

③ 「東京の湧水５７選」　湧水が見られるでしょうか。
④ 大木の根元をきれいな水が流れるようすが見られるか？
⑤ 第十小学校の北、川との間は木道がつくられています。水草がゆれているのが見られるか？（例年はこのあたりが水源）

⑥ しんやま親水広場

どぶのような護岸の川でしたが傾斜をゆるやかにし、余水は歩道の下のトンネルを流しています。

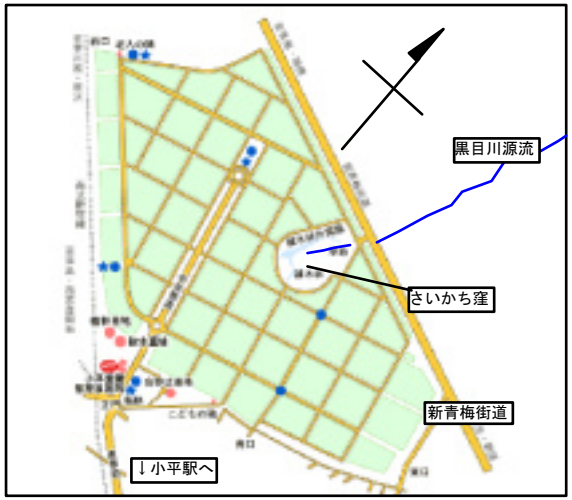
⑦ 桜の落ち葉を踏みながら、広場を進み、宮裏橋手前で折り返して小平に戻ります。

◆ 小平霊園

小平霊園は、昭和23年に開設した都営霊園で、総面積は約６５万平方メートル、墓地として利用されているのは約半分で、残りは園路や緑地となっており、明るい公園のような環境です。次ページの図のように碁盤目区画されていますが、さいかち窪のある林の部分だけは円形に区切られています。

この霊園にには、つぎの方々のお墓もあります。

松島詩子（歌手）宮本百合子（作家）佐分利信（俳優）
伊藤　整（作家）壺井　栄（作家）小川未明（児童文学）
有吉佐和子（作家）野口雨情（詩人）
斉田愛子(声楽家)
津村　謙(歌手) 織井茂子(歌手)
児島善三郎(洋画家)
蝋山政道(政治学者)角川源義(出版社)
千葉信男(喜劇俳優)　・・・・・



次 回 の 予 定

ハイキング参加の方のお名前（敬称略）

1		
2		
3		
4		
5		リーダー
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		

杉並区退職教職員協議会（さくら会）